



第23回「現代子ども学」公開講座

2022年11月23日(水)、3年ぶりに対面での「現代子ども学」公開講座を実施しました。仙田考准教授(田園調布学園大学/大学院)をお迎えし、「つながりから考える、子どもの主体性を育む屋外環境とは」というテーマで講演を行っていただきました。

資金や狭さ、アイデアに限りがあっても、小さなことから始められること、例えばプランター緑化の事例や1本の苗や樹木の植栽、園庭に小さな山をつくる、板や丸太などの可動のあそび素材を導入することなど、手軽に始められる園庭改善の具体的方法も紹介していただきました。その後先生がデザインされた四街道さつき幼稚園の理事長先生、園長先生をお迎えしてトークセッションも行われました。



ブラッシュアップゼミ発表

2023年1月11日(水)、2年生が半年かけて取り組んできたゼミの成果を発表しました。保育現場や子育て支援に役立つ情報は今後発信したいと考えています。



- 幼児が熱中する遊びを作り出す
- 子育て支援と絵本
- 保育現場で役立つ「音楽表現」
- 創ろう、魅せよう
- 子ども・家族について考える
- 子どもと絵本と造形表現
- 遊びと自然
- 絵本と遊び
- 社会福祉施設・支援探求
- 子どもの身体表現



地域連携事業

コミュニティカレッジさくら

2022年度は、5名の教員が計7回講師として出講し、それぞれの専門分野からの講義を行いました。

月日	講義テーマ	派遣講師
5/21	入学記念講演「ちばを知ろう～千葉再発見～」	明石 要一
7/1	よりよく「聴く」ことへの「責任」～守秘義務と個人情報の扱い 傾聴技術の習得～ よりよいコミュニケーションとは～アサーション・トレーニングと DESC 法体験～	大野 雄子
7/9	地域の様々な実践～実践者を困らせて子育て支援実践例～	吉村 真理子
8/5	よりよいコミュニケーションとは～グループエンカウンター体験～	吉村 真理子
8/26	地域のリーダーになるために～地域の人の意見をまとめるには～	清水 一巳
12/16	家庭・家族と地域の社会的役割～青少年を取り巻く現代社会の環境～	新田 司
2/18	研究発表 講評	明石 要一



総合子ども学研究所 ニュースレター Vol. 11

発行日：2023年4月1日
http://www.chibakeiai.ac.jp

〒285-8567 千葉県佐倉市山王 1-9
TEL. 043-486-7111 (代表)

——教育・保育の敬愛

千葉敬愛短期大学

総合子ども学研究所 ニュースレター Vol.11

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的として設置されました。



学長メッセージ

今関心をもっていること「話す力」と「聞く力」の育成

これまでの学校教育は「読む力」と「書く力」の育成に重点が置かれてきました。そして「話す力」と「聞く力」の育成には関心が薄かった。その付けが今生まれていきます。子どもたちのコミュニケーション能力不足で、他者とのかわりを苦手とする人が増えています。

「読む力」と「書く力」はデスクワークで身に付けさせることが可能ですが、「話す力」と「聞く力」はライブなのでどこまで教えられるか、難しいものです。「話す力」は生きていくうえで欠かせない力ですが、学校教育にはそうした自覚が不足していました。生きていくうえでなぜ「話す力」が必要か、事例を紹介します。

1. 西部劇の一シーン

西部劇を見た人ならわかる一シーンです。
馬に乗ったカウボーイがある家の前に現れます。その時、家の主人はライフルを構えて迎え「お前は誰だ。どこから何をしに来たのだ」と尋ねます。相手がしゃべるまでライフルは下ろしません。カウボーイが口上を述べて身元がはっきりして初めてライフルを下ろします。アメリカでは見知らぬストレンジャーに対しては構える習性があるので、カウボーイにとって口上が大切になります。話す力が弱いと命を落としかねないのです。

2. 「寅さん」の口上

「男はつらいよ」の寅さんはあまり仕事をしませんが、縁日でモノを売って日銭を稼ぐシーンがあります。その時の口上の良しあしで売り上げが変わります。個人的にはそのシーンが好きです。バナナのたたき売りのように、テキ屋は口上がうまくないとモノを売れません。

また、股旅の映画には一宿一飯を得るために口上で仁義

を切る場面があります。渡世人にとって「お控えなすって手前、生国は〇〇、名は△△」で始まる自己紹介ができないと野宿するしか道がなく、生きるために必死で口上を身に付けたのです。

そして「話す力」と同じように「聞く力」も弱まっています。例えば大学生がノートを取れなくなっています。小学校から高校までノートを写すことに専念してきたことを踏まえると、ノートを取る習慣が身に付いていないのは当然です。しかし、大学の良さはノートを取る習慣の育成にありました。「ノートを写す」は疑いなく書かれたこと全てを記載しますが、「ノートを取る」ためには取捨選択しなければなりません。つまり大切なものは何かを考え続ける学びだといえます。ただそれができないから写す作業に没頭するのです。

大学の教育でも「捨てる」文化の育成ができにくくなっています。「捨てる」ことは何が大切かの判断を求められますが、それをせずにとにかく「保存する」ことに気を配っています。「話す力」と「聞く力」をこれまでは社会教育が担ってきました。でもそれだけでよいのでしょうか。学校教育の場で再構築できないか、という問題提起が今求められています。



学長 明石 要一

敬天愛人

本学は「敬天愛人」を建学の精神として掲げる全国でただひとつの学園。教育者にふさわしい人間性の陶冶を目指しています。

2022 年度、総合子ども学研究所では、下記の事業を計画、実施いたしました。その一部を紹介します。

1. 現代子ども学公開講座 / 2. KEIAI ☆フェスタ 2022 における研究発表会 / 3. 卒業生との共同研究会 / 4. 子育て支援ニーズ調査 / 5. さくらコミュニティカレッジへの講師派遣 /
6. 高大連携・高大接続教育（高校生セミナー、出前講座） / 7. 中高生向けの保育体験講座の実施 / 8. 学校・園や図書館、民間団体主催の行事へのボランティアの派遣 / 9. 図書係との連携による廃棄図書の地域での活用



卒業生との共同研究

多様な子どもの保育への対応力につなげていくことを目的に、保育共同研究会を企画、第 1 回目の研究会を 2022 年 8 月 24 日（水）に開催いたしました。卒業生の保育者と研究所所員である本学教員が参加し、これからの保育に求められる保育実践の好事例や保育活動における悩みを共有することができました。今後も継続的に開催する予定です。



KEIAI ☆フェスタ 2022 での研究発表

KEIAI ☆フェスタ 2022 の初日、10 月 23 日（土）に、本学の教育の紹介、授業内での研究調査をポスター形式にて展示発表を行いました。卒業生や地域の方々に本学の教育の特徴を知っていただく機会になりました。



図書係との連携による廃棄図書の地域での活用

利用しなくなった図書館や教職員の図書を廃棄せず、必要な人たち同士でシェアする「本の SDGs」活動を開始しました。これは、SDGs 17 の目標の中の一つ「12 つくる責任 つかう責任」「2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」の活動です。KEIAI ☆フェスタ 2022 において図書係の学生の協力のもと、メディアセンターの一角に除籍本を設置し、自由に持ち帰れるようにしました。



高大連携事業

本学の教育資源を、本学の学生だけでなく広く次世代に提供することも、重要な使命と考えています。高校とも連携し、質の高い保育者を育てていくことを目指しています。現在、16 校と連携を結んでおり、出前授業などを行っています。



佐原白楊高校、千城台高校と敬愛大学・千葉敬愛短期大学との高大連携教育協定の調印式（2022 年 3 月 28 日）



高校生セミナー（高大接続教育）

2022 年 6 月 15 日（水）、「保育の仕事 観る・聴く・体験する」と題した高校生セミナーを実施しました。さくら敬愛保育園を見学した後、本学にて、守屋園長先生のお話を伺いました。その後、本学教員による絵本についての話しの後、参加者によるブックトークも行いました。

また 8 月 6 日（土）に『楽しいピアノ講座 ～カラフルなドレミの世界を楽しもう！～』、9 月 10 日（土）に『楽しいピアノ講座 ～しりとり之歌♪こぶためきつねこ♪を両手で弾いてみよう！』を実施し、音楽理論基礎、ピアノグループレッスン、ピアノのアンサンブルを行いました。ピアノ初心者の方が多く参加されていましたが、少しずつ弾けるようになり、ピアノを楽しんでいただけたと同時に、ピアノへの不安が和らいだようでした。



学生による出前講座（高大接続教育）

2022 年 7 月 19 日（火）に千城台高校（3 年保育・教育系希望者対象 20 名対象）、10 月 27 日（木）松戸向陽高校（2 年全クラス対象のうち 2 クラス 70 名対象）では、職業理解の講座を任せ、本学の学生がそれぞれの高校時代の進路行動や短大での学び、実習関連の学びについて語り質問や相談を受けるという相互交流のプログラムが実施できました。

